

恵の実「ステップくん」2022年2月実施

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>新しくログハウスを設置した。ステップ棟の室内も、扉で3つの部屋に分けることができるので、利用者の様子や活動内容に合わせて、部屋を使い分けしている。</li> <li>園庭があり、子どもたちが外で安全に遊ぶことも可能である。</li> </ul>
	2	職員の配置数は適切であるか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>20人の定員に対して、管理者と児発管以外の直接処遇職員を6人配置しており、職員の配置基準を満たしている。</li> <li>次年度はさらに利用者数が増える予定であるため、限られた職員の中で、個別支援が必要な利用者も含め、ひとりひとりの利用者の願いに応える療育を行うには、職員同士の連携と工夫が更に必要である。</li> </ul>
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に配慮し、バリアフリー化をしているところと、必要に応じた段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげているところと、両方を大切にしている。</li> </ul>
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>週に1回の事業所内会議、毎月1~2回の法人内会議にて、必要に応じて業務改善についての話し合いの場を設けている。</li> <li>しっかりとしたPDCAサイクルには至っていないので、職員一人一人が意識できるように働きかけていく。</li> </ul>
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>年に1回、自己評価表のアンケートを行い、アンケート内容について職員で話し合い、改善策を導き出している。その結果を、ホームページで公開している。</li> <li>自己評価とは別に、文章で記入していただくアンケートも行き、アンケート結果については改善策も含め茶話会等で保護者に伝えている。</li> <li>みんなが意見を出しやすいよう、意見箱の設置の仕方を検討する。</li> </ul>
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年度に第三者評価を実施した。その際に指導していただいたことを、業務改善につなげてきた。</li> </ul>
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>リモートでの研修にも慣れ、研修機会が確保できるようになったが、外部研修への参加が少なくなってしまった職員もいた。資質向上計画にて、職員一人一人が自分の目標をしっかりとるよう働きかけていく。</li> </ul>
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>1年に一度アセスメントを行い、利用者や保護者のニーズを共有し、支援計画作成につなげている。</li> </ul>
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所内で統一したアセスメントツールを使用しているが、見直しが必要である。</li> </ul>
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>週に1回の会議の中で、活動プログラムの立案を行っている。子ども達のやりたいことが実現していくよう、いろんな職員の視点から意見を出し合い、様々な体験ができるように検討している。また、活動後には振り返りを行い、次の活動に活かせるようにしている。</li> </ul>
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとに伝統行事を取り入れた活動を工夫している。また、季節に合わせた自然体験を取り入れ、利用者それぞれの発達に合わせた配慮をしながら、さまざまな体験ができるようにしている。</li> <li>その年の利用者の様子や趣向に合わせて、活動を新たに計画するなど、できるだけ柔軟に対応している。</li> </ul>

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			・学校休業日には、サービス提供時間を拡大し、午前中の活動が保障できるようにしている。 ・長期休暇には、普段できないお泊り活動や食事作り、自然体験などを企画して行っている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・恵のまつ子クラブ(学童クラブ)との統合保育を活かし集団的活動を行うところ、個別活動による個の充実、また少人数活動など、利用者の発達等の状況に合わせてそれらを組み合わせ、支援計画を作成している。 ・どちらかに偏りすぎないように、定期的に見直しをしながら進める必要がある。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・支援開始前には、その日の活動内容や配慮が必要な利用者の確認、職員の役割分担など打ち合わせを行っている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		・支援終了後は、保護者対応等で職員全員が集まりにくく、細かな支援の振り返りの共有まではその日のうちに行いにくい。翌日等の支援が始まる前までに、共有ができるようにしている。その日のうちに共有すべきことは、時間を調整し共有できるようにしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			・その日の支援の内容や利用者の様子を記録に残している。記録をもとに、モニタリングなどの支援の評価や子どもの捉えにつなげている。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			・半年に1回以上モニタリングを行い、職員間で検討をし合い、支援計画の見直しを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	○			・ガイドラインの基本活動を組み合わせ、ものになっている。	
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・担当者会議がある際には、子どもの状況がよく分かっている職員が出席し、情報の共有を行っている。会議の内容については、職員間で共有するようにしている。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			・送迎時に担任の先生と話をするほか、電話やFAX、学校訪問等により、学校側と情報共有をしながら、利用者の支援につなげてきた。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				・体制が整っていない為、医療的ケアが必要な子どもの受け入れはしていない。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			・担当していた職員より利用者や保護者の様子等の情報を引継ぎ、円滑な移行ができるよう努めている。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか				・これまで対象となる児童がいない。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		・センター等が主催する研修には、日程が合えば参加できるようにしているが、助言等を受ける機会はない。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			・同法人内にある、恵のまつ子クラブ(学童クラブ)の子ども達と統合保育を行っており、日常的に障がいのない子どもと活動する機会がある。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	・豊川市の放課後等デイサービス共有会議に参加をするようになったが、会議自体の開催がほとんどなかった。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・日頃の利用者の様子を、映像なども使ってできる限り分かりやすく、保護者に伝えるようにしている。 ・やりとりノートを利用して情報共有している家庭もある。
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか			○	・面談時に、家庭での対応方法を助言したり、活動参加をしてもらい、子どもと直接関わる中で子どもとの関わり方や子どもの理解の仕方について一緒に考え合っていく機会をつくっている。 ・今後も保護者に活動参加をしてもらう機会を作り、実際の子どもの様子を見る中で、一緒に考え合う機会を作っていく。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			・年度の切り替えの際に、説明をするようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			・保護者からの相談にはできる限り迅速に対応し、助言できるようにしている。気になる内容については、上長に報告し、適切な助言や支援ができるよう連携をとっている。また、職員の方からも声をかけるようにし、保護者の悩みに気づいていけるよう意識している。 ・茶話会を定期的に行い、保護者が悩みを出しやすい機会を作ってきた。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			・発達や悩みに合わせて小グループでの茶話会を定期的を実施してきた。中には、いろいろな事情があり茶話会に参加されにくい保護者の方もいる。そうした保護者の方が、少人数でもいいので他の保護者の方と話せる場が持てるよう工夫をしていきたい。 ・保護者の人数が多い為、茶話会を二つのグループに分けて行っている。それにより、同じグループではない保護者同士の方が話す機会が少なくなってしまう。次年度は、グループ別に行うだけでなく、全体で茶話会を行う機会も作っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・契約時に、相談・苦情受付窓口や担当者、第三者委員の設置などの情報を伝えている。相談や申し入れがあった際は、できるだけ速やかに職員間で話し合いの場を持ち、改善につなげるよう心がけている。 ・苦情となる前の、保護者の意見のひとつひとつを真摯に受け止め、職員間で共有、検討することを大切にしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・活動ごとに活動概要や活動のねらい、活動後の報告などをお便りにして伝えている。 ・お便りの発行が少し遅くなってしまう時があるので、改善していく。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			・書類は、書棚で管理している。職員は、年度初めに守秘義務や書類や個人情報等の管理の仕方について周知をしている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			・子どもとの意思疎通については、利用者それぞれに合わせてその子の理解のしやすい伝え方の工夫をしたり、視覚的な手立てを利用するなど配慮している。発達のゆっくりなお子さんに対して、その子に合わせて生活の分かりやすさへの工夫をさらに考えていきたい。 ・保護者への情報伝達については、口頭だけでなく書面で伝えたり、保護者の様子に合わせて、時間にゆとりをもって個別で丁寧に対応するようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	・コロナ禍のため、行事に地域の方を招待する機会を設けにくくなっている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		・実働に合わせたマニュアルの見直しが必要である。見直し後保護者に周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			・避難訓練を行っているが、今年度は実施回数が少なかった。実際に必要な訓練内容を見直し、実施計画を立てていく。また、災害に備え、必要な備蓄品や安全対策の見直しも行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			・管理者より、虐待防止に関する情報提供や研修を行っているが、今後虐待防止委員会の設置を含め、より学びを深めていく必要がある。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			・身体拘束になりうる可能性がある場合は、保護者への確認や説明を行い、支援計画に記載するようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか				・現在は食物アレルギーの子はいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			・ヒヤリハットがあった際は、すぐに関係職員、上長で検証と再発防止について話し合うようにしている。また、その内容を記録し、職員間でも共有できるようにしている。職員会議等で、再度情報共有する場をもち、再発防止に努めている。 ・ちよっとしたヒヤリハットでも、記録に残して職員間で共有できるようにしている。